

ロンドン大学ユニバーシティカレッジロンドン学長来訪（2023/10/5）

テーマ：国際連携、災害科学

場所：宮城県仙台市、東北大学、災害科学国際研究所

10月5日（木）、大学間協定校であり、本学の戦略的なパートナーである UCL（University College London）の学長、Dr. Michael Spence 氏が本学を来訪しました。この訪問には Prof. Alan Thompson（脳科学学部長）、Prof. Nigel Titchener-Hooker（工学学部長）、Mr. Ciaran Moynihan（国際連携担当ディレクター）、Mr. Nick Marsden（副学長事務局担当副ディレクター）、Ms. Tania Trosini（外部連携・運営担当部長）、Ms. Keiko Tsunekawa（国際連携マネージャー）の6名が同行しました。

この訪問の中で、UCL 学長と大野英男東北大学総長との会談が行われ、UCL は本学の国際卓越研究大学制度の中でも特に重要なパートナーであることが確認されました。今年3月に行われた植木俊哉理事・副学長（総務・財務・国際展開担当）と Geraint Rees 副学長との会談に続き、今回の訪問では両大学の今後の連携発展について意見交換が行われました。特に、UCL と東北大学の災害研究における連携は東日本大震災以降も継続し、両大学の研究者たちは共同研究だけでなく教育連携も積極的に行っています。

UCL の代表団は当研究所にも来訪しました。当研究所の栗山進一所长・教授（災害公衆衛生学分野）との面談では、栗山所長は、災害医学とインクルーシブ防災における重要性和 UCL との連携を強調しました。また、東日本大震災から継続して構築している医学データの活用についても議論が行われ、医学、特に脳科学、高齢者の研究、工学、人文学など多様性のある共同研究の可能性が探られました。

また、UCL のマスター課程修了の学生で、現在当研究所で博士課程に在籍しているイギリス人学生も面談に参加しました。該当学生は津波工学を専門とし、リスクコミュニケーションなど社会学と津波工学との連携の重要性について、そして、当研究所との信頼関係を築いた東日本大震災のフィールドワークについての重要性を強調しました。

この訪問を通じて、UCL と当研究所の連携の重要性が再確認され、新たな所長のもと、災害研究を医学、工学、人文学など多岐にわたる分野と災害に関わるステークホルダーと共に国際的に発展させる方向性について、活発な議論が行われました。

UCL 学長の来訪と本学総長との会談により、当研究所との連携強化、災害研究の進展、学生の連携に関する活発な議論が行われ、今後の共同プロジェクトや連携の展望が明確になりました。UCL と当研究所の連携は、さらなる成果が期待されるものとなっています。

文責：北村美和子（国際研究推進オフィス）
サッパシー・アナワット（津波工学研究分野）
（次頁へつづく）



当研究所エントランスの展示スペース
見学の様子



当研究所 2 階展示スペース
企画展「仙台に残されていた関東大震災の
記録：100 年の時を経て特別公開」
見学の様子



当研究所で行われたミーティングの様子



UCL 学長ら訪問団との記念撮影